

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ・あつまPRプロジェクト学習
- ・焚き火を囲もう in 厚真開催
- ・読書感想文コンクール授賞式
- ・就学援助のお知らせ
- ・2月定例教育委員会報告
- ・図書室だより
- ・放課後子ども教室活動報告

厚真の良さを英語で外国人に伝える取組

あつまPRプロジェクト学習

厚真町では、今年度から小中一貫教育の準備を開始し、9年間の学びの連続を大切にしたい取組を行っています。その一つの形として、2月20日は厚真中央小学校・厚真中学校を会場に、21日には上厚真小学校・厚南中学校を会場に、小学校6年生の「あつまPRプロジェクト学習」、それを発展させた中学校1年生の「あつまPRプロジェクト学習」を実施しました。

児童生徒は、町の特産品や産業などの紹介を素材に

- ①異なる文化をもつ外国の方とも臆せずコミュニケーションを図る。
- ②既習の知識やスキルを活用し、会話活動(発表とやりとり)に臨む。
- ③円滑なコミュニケーションを目指し、工夫する。

の3点を目標に、表情豊かに取り組みました。



焚き火から始まるコミュニケーション

～焚き火を囲もうin厚真を開催～

2月11日(月・祝)と3月10日(日)に、あつまスタードーム横の敷地で「焚き火を囲もう in 厚真」を開催しました。このイベントは、焚き火を囲みながら大人も子どもも一緒になって楽しもうという趣旨で、焚き火を使った調理体験やそりすべりなどの雪遊び、その他にも馬そり・スラックライン・ハンモックなど、多様な体験活動を行いました。

第1回目は、厚真町の地域おこし協力隊である西埜将世さんに協力していただき、馬そり体験と餌やり体験を行いました。普段はなかなかできない体験に参加者からは笑顔があふれていました。第2回目は、あつま森のようちえんワッカのメンバーの方々に協力していただき、乾燥野菜を使った豚汁がふるまわれました。寒い中で食べる豚汁は格別で、参加者は「おいしい」「あつままるー！」と大喜びでした。

幼児から高齢者の方が参加したこのイベントでは、世代を超えたつながりを作ることができました。来年度からは厚真中央小学校横に建設予定の「厚真放課後子どもセンター」の裏の森を活用して、このような「場」を作っていきたいと思っています。皆さん、ぜひご参加ください！



平成30年度読書感想文コンクール 授賞式開催

応募総数 243点

町内の小学生を対象に、冬休み期間中、本に親しみ、心豊かな子どもたちを育むことを目的に毎年開催している『読書感想文コンクール』の表彰式が2月16日に行われました。

今年度は町内の小学校2校から243作品が寄せられ、厳正な審査の結果、各学年から最優秀賞、優秀賞、優良賞の41点の入賞作品が決定し、大賞には厚真中央小学校5年生大宮幹丞さんの『復興は“ゆいまーる”』が選ばれました。

表彰式では、保護者や学校の先生たちが見守るなか、入賞者の表彰と大賞・各学年の最優秀賞作品の朗読が行われました。

大賞作品 「復興は“ゆいまーる”」

厚真中央小学校 大宮 幹丞

『ガレキの中にできたカフェ』。ぼくは、この題名を見て、(どうしてガレキの中にカフェができたのだろう。)(なぜガレキがあるのだろう。)と思いました。でも、この本を読み進めるうちに、主人公のみなみちゃん達が、ぼく達と同じようなつらい思いをしていたことが分かりました。

小学4年生のみなみちゃんは、東日本大震災で、住んでいた町が大地震と津波の被害にあいました。みなみちゃんの家は流され、大切な物もなくなってしまいました。小さな町を一飲みにした津波で、町はガレキだらけになりました。避難所で生活することになったみなみちゃんは、知り合いのクマ兄、トキ姉達と避難所運営の手伝いをします。ある日、沖縄から来た自衛隊の人から、「ゆいまーる」という言葉を教えてもらいます。「ゆいまーる」とは、助け合ってみんなでがんばる、という意味です。この言葉を大切に、みなみちゃん達はみんなでカフェを造りました。この時みなみちゃんはこう思います。(復興はてんでんこじゃない、ゆいまーるなのだ。)と。「てんでんこ」とは、1人1人ばらばらという意味で、津波から避難する時に大切にされた言葉です。

ぼくは、みなみちゃんが感じたこの言葉がとても心に残りました。理由は、ぼく達が地震にあった時も、みんなで協力して物事を解決していったからです。地震がおきた後、ぼくは家族と一緒に毛布をかぶって、同じ班の近所の人達の家をまわりました。「大丈夫ですか？」と声をかけ合ったり、たおれた灯油タンクと一緒に直したりすることは、「ゆいまーる」だと思います。また、避難所でダンボールベッドを組み立てた時も、一人では何日もかかりそうな仕事が、全員で協力してやることで、1時間位で終わらせることができました。しかも、だれかが指示を出さなくても自然と、段ボールを箱の形にする人、移動させる人、板状の段ボールを上に乗せる人と、役割分担をしてやったから素早くできたのだと思います。終わった時、みんなで拍手をして、とてもうれしい気持ちになったのを今でも覚えています。

ぼくは、もし全く話したことがない人ばかりだったら、このように気軽に声をかけ合ったり、協力し合ったりすることは難しかったと思いました。そうならないようにするためには、地域の人が顔見知りになっておくことが必要です。だから、ぼくはこれからも、日頃から近所の人とあいさつをしたり、ごみ拾いやお花見などの地域の行事にも積極的に参加したりしようと思います。そして、厚真町が復興できるように、「ゆいまーる」という言葉を大切に、元気に生活していきたいです。

学年	入賞区分	学校名	児童氏名
1年生	最優秀賞	厚真中央小	飯塚 應介
	優秀賞	上厚真小	松辻 陸叶
	優良賞	厚真中央小	大垣 尚生
	〃	厚真中央小	加勢 愛理
	〃	上厚真小	木村 蒼杜
	〃	厚真中央小	中村 夢歩
2年生	〃	厚真中央小	前田 泰知
	最優秀賞	厚真中央小	大宮 暉子
	優秀賞	厚真中央小	佐藤 遥
	優良賞	厚真中央小	青山陽太郎
	〃	上厚真小	石掛 希
	〃	厚真中央小	梶谷 卓矢
3年生	〃	厚真中央小	田中こまち
	〃	上厚真小	渡邊 聖涼
	最優秀賞	厚真中央小	丸山さくら
	優秀賞	厚真中央小	福田 莉子
	優良賞	上厚真小	岩間 咲映
	〃	厚真中央小	大越りりい
4年生	〃	厚真中央小	酒井 一成
	〃	上厚真小	清野 百花
	最優秀賞	厚真中央小	松山 陽菜
	優秀賞	厚真中央小	田中 萌葉
	優良賞	上厚真小	川村 海陽
	〃	上厚真小	澤田 花凜
5年生	〃	厚真中央小	高橋 凜久
	〃	厚真中央小	福迫 美空
	〃	厚真中央小	星 優真
	大賞	厚真中央小	大宮 幹丞
	優秀賞	上厚真小	折坂 結望
	優良賞	上厚真小	荒井 愛海
6年生	〃	上厚真小	内山 裕翔
	〃	厚真中央小	梶谷 怜矢
	〃	厚真中央小	今野 仁菜
	〃	厚真中央小	畑山 美空
	最優秀賞	厚真中央小	渡辺小菜恵
	優秀賞	上厚真小	藤樫 悠人
優良賞	上厚真小	安達 陽	
〃	厚真中央小	伊藤 楓花	
〃	厚真中央小	金澤 優奈	
〃	上厚真小	金谷 梨央	
〃	厚真中央小	佐々木結華	

平成31年度の 就学援助のお知らせ

教育委員会では、次のいずれかに該当する世帯に対して学用品費などを援助しています。

- 対象
 - ①生活保護が停止か廃止になった世帯
 - ②町民税が非課税か減免になった世帯
 - ③個人事業税や固定資産税が減免になった世帯
 - ④国民年金保険料の免除、国民健康保険料が減免、又は徴収が猶予された世帯
 - ⑤児童扶養手当を受給している世帯
 - ⑥世帯更生資金を利用している世帯
 - ⑦公共職業安定所に登録している、日雇い労働の世帯
 - ⑧その他経済的に困りの世帯
- 援助内容 学用品費、修学旅行費、新入学用品費、学校給食費、体育実技用具費、医療費、PTA会費、生徒会費
- 提出書類
 - ・就学援助費申請書（各学校にあります）
 - ・平成30年分源泉徴収票や確定申告書の写し
 - ・対象の世帯であることを証明できる書類の写し
- 申込み 5月9日【木】までに各学校へお申込みください。小学校と中学校にお子様に通学している家庭は、それぞれの学校に申請書を提出してください。
- 問合せ 学校教育グループ
☎27-2494

2月定例教育委員会

2月12日に開催された臨時教育委員会、2月28日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告事項

2月21日に発生した地震の対応、厚真町いじめ問題対策連絡協議会、学校給食センターへ食材の寄贈、第24回室内ソフトボール大会、読書感想文懇キョール表彰式、放課後児童クラブ保護者説明

◆議案

(2/12) 平成31年度教育行政執行方針について

(2/28) 厚真町立中学校に係る部活動の方針について、北海道厚真高等学校教育振興会補助要綱の一部改正について

◆協議

平成31年度以降における本町小中学校の授業時数について

◆その他

卒業式・入学式の出席者確認について

★問合せ

学校教育グループ

☎27-2494

パークゴルフ場オープン

◎上厚真パークゴルフ場

4月15日（月）予定

◎本郷いこいの森パークゴルフ場

5月1日（祝）予定

新町パークゴルフ場は震災の影響により来年度いっぱい閉鎖となります。ご理解のほど、よろしくお願いたします。

厚真町育英資金貸付のご案内

厚真町に住所をお持ちの方の子弟で、大学等に進学された方に学資金の貸付を行っています。

●貸付対象者

- (1) 短期大学、大学、大学院（防衛大学校等を除く）
- (2) 高等専門学校（第4・5学年及び専攻科）
- (3) 専修学校専門課程（2年以上4年以内）
- (4) 国外において(1)～(3)に掲げる学校に相当する教育内容を行う学校

上記(1)～(4)の新規入学者か在校生で、保護者が厚真町内に在住されている方。

●選考基準

学校の内容、学業成績、健康状態、学習意欲、ご家庭の経済力等を考慮して決定します。

●貸付月額

月額6万円以内で1万円単位に希望する額

●利息 無利子

※育英資金貸付のほか、近藤奨学金、中村奨学金、加賀谷厚三・明美奨学金があり、これらの奨学金は育英資金の貸付決定者から選考し、給付されます。

●貸付方法

希望される金融機関の口座（保護者等）へ毎月上旬にお振込いたします。

・通常貸付：初回貸付は7月中旬（4～7月分）

・早期貸付：初回貸付は6月中旬（4～6月分）

※早期貸付の場合、前年（平成30年）の総所得金額が決定した段階で基準を満たさなくなった場合は、返還手続きが必要になります。

●返済方法

卒業後、6カ月の据置期間の後、借用期間の3倍以内の期間で返済していただきます。

●提出書類

- ①申請書（教育委員会にあります）
- ②在学証明書
- ③成績証明書（最後に在学していた学校の証明書）
- ④健康診断書（入学後、学校で受けた結果の写し）
- ⑤課税資料閲覧承諾書（申請書に添付します）

●申込期限

平成31年5月31日（金）まで

（ただし、早期貸付（6月）を希望される場合は5月1日（水）までに申請してください。）

●申込先 学校教育グループ

☎27-2494（直通）

図書室だより

青少年センター図書室

TEL 27-2495 (平日)

連休期間の開館について

新天皇即位日とその前後の祝日に伴い、厚真町公民館図書室は休館いたします。
開館スケジュールは次の通りです。

4月				5月					
27日	28日	29日	30日	1日	2日	3日	4日	5日	6日
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
開館	開館	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館	開館

町の記録を集める伝える役目

厚真町公民館図書室では、「広報あつま」や自治会記念誌など、厚真町の歴史を伝える様々な資料を保存しています。町内外の方から由来や歴史、先祖が住んでいた場所についてなど様々な問い合わせがあるとこれらの資料を利用して、分かる範囲で回答しています。

震災後は被害が大きかった地区についての質問をよく受けました。私自身、厚真町へ越してきたのが3年前のため、資料以上のことは分からず、回答できないことがありました。自治会記念誌を発行している地区であれば、厚真町の開拓が始まったところからの歴史をたどることができますが、そのような記念誌を発行されていない地区はその当時のことを知る人がいなくなった時点で「記録が無くなる」ことになるのだなと実感しています。

図書室には地域資料を収集し保存するという大切な役割があります。災害が起きた地域の図書館では災害の記録を収集するという活動が活発です。厚真町公民館図書室でも、取り組んでいきたいと思っています。(司書 田頭)

青少年センターからのお知らせ ～4月の予定～

★プラネタリウム★

●投影日時

・毎週土曜日 午後1時30分～

●投影内容

1 春の星座解説

2 New Horizons

「まだ見ぬ地平線に降り立つ！」

※グループ、団体などご利用を希望の際は、事前にお問い合わせください。

あの日の空を忘れない

2011年3月11日の夜。あの日の星空を忘れないという被災者は8年を経た今も数多くいると言われます。普段明かりを灯していた建物が流され、また停電により、真っ暗な街並みを照らしたのは満天の星でした。

私たちにも忘れられない星空があります。昨年9月6日の夜。夜空を見る余裕などなかった方もいらっしゃると思います。しかし、自然に翻弄ほんろうされた私たちの頭上には確かに輝く星がありました。9年目の被災地と半年の被災地。場所は違えど、空は確かにつながっています。

お問い合わせ先：社会教育グループ ☎ 27-2495

☆放課後子ども教室☆

空を渡る鳥の群れや、雪が解けた地面からひょっこり顔を出すフキノトウ。春の足音が少しずつ近づいているのを感じます。3月は旅立ち、そして、新しい出会いに向けて準備を進める季節です。先日、今年度の活動をふり返る『H30年度厚真町放課後子ども教室活動報告会』を総合ケアセンターゆくりで開催しました。放課後子ども教室の参加者である小学生はもちろん、卒業生や保護者、地域の方々、関係者など合わせて約40名のご参加をいただきました。放課後子ども教室の概要、登録率や参加者数などの実績、参加者数の多かった人気プログラムの発表、特別教室の実施状況、震災による活動休止時の対応などを報告し、1年の活動を写真でふり返るスライドショーを上映しました。表情豊かに遊ぶ子どもたちの姿を見つめる会場は、とても和やかな雰囲気です。報告会の最後には、今後に向けて放課後子ども教室がどのような場所であってほしいか、どんなプログラムをやりたいか、会場のみなさんからアイデアを募りました。子どもたちからはプールやおやつ作りといった定番プログラムや宿泊型の特別教室、保護者の方からは親子で参加できる川遊びなどのリクエストが寄せられました。どれも面白そうなアイデアばかりなので、形にできるよう考えていきたいと思います。

放課後子ども教室が始まって7年。最初の年に出会った卒業生はこの春、高校を卒業し、進学や就職とそれぞれの道を歩んでいく年齢になりました。目の前にいる子どもたち、そして、成長して大人になっていく子どもたちにとって、ふるさと・厚真で育った記憶をどのように心の糧として残せるか、今一度、真剣に見つめなければと考えています。これまでに人、自然、産業、文化など厚真町の資源と子どもたちが会える場をつくってきました。そこに“防災”や“地域のコミュニティ”という新たなキーワードを加えながら、厚真の子どもたちが「自分が育ったまちのことを、自分の体験をもとに、自分の言葉で語れる人材」に育っていくよう努めていきたいと思います。

今年もまた巣立っていく子どもたちに心からの感謝を。そして、新たな出会いへの期待を胸に気持ち良くH31年度のスタートを切れるよう準備を整えていきます。春からもたくさん遊びましょう！

